

# 農のうくうかん

第48号

発行所  
福島県農林水産部  
農村計画課

## 「稔りの秋」を迎えました！！



(夏井小学校)



(南郷第二小学校)



(善郷小学校)

田んぼ一面が黄金色に輝き、県内各地の学校田では稲刈りが行われています。『田んぼの学校』事業は、将来を担う子供たちに、一年間の農作業を通じて地域の農業や土地改良施設への理解を深めてもらう目的で、県内七箇所において実施しています。9月22日、富岡第二小学校の三年生による稲刈りは、学校近くの学習田において、地域の応援団や相双農林事務所との協力を受けて実施されました。春に植えた稲はたわわに実り、子供たちは初めて持つ「のこぎりがま」を手に、一株一株ていねいに稲を刈り取りました。体をかがめ、額に汗しながらも、子供たちは笑顔にあふれ、「収穫の喜び」を体験したようです。刈り取った



(富岡第二小学校)



(第四小学校・平石小学校)

【今年度の参加校】  
○県北：福島市立第四小学校（5年生）平石小学校（5・6年生）  
○県中：須賀川市立阿武隈小学校（5年生）  
○県南：矢吹町立善郷小学校（5年生）  
○会津：柳津町立柳津小学校（4・5年生）  
○南会津：南会津町立南郷第二小学校（5年生）  
○相双：富岡町立富岡第二小学校（3年生）  
○いわき：いわき市立夏井小学校（5年生）

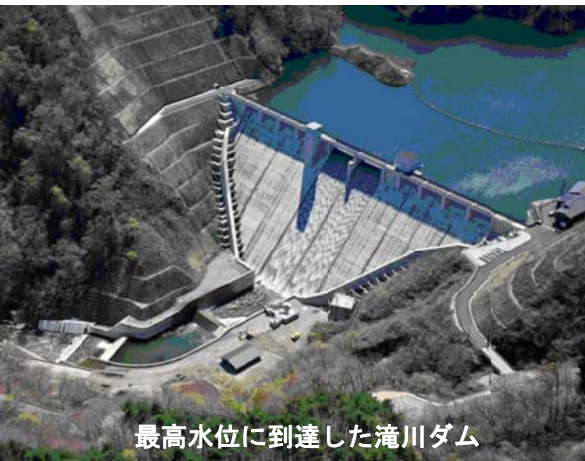
た稲は、束ねて「はぜかけ」をし、天日干しで約一カ月乾燥します。今後の稲刈り実施予定は、会津の柳津小が10月1日、県北の福島四小が14日、県中の阿武隈小が18日です。11月には各校で、「収穫祭」を行う予定です。また、11月19日には猪苗代町で、参加校を対象にした農業用水の水源地を訪ねる学習会を予定しています。

### 相 双

県内各方形部からの便り

#### ○『滝川ダム供用開始目前』 （県営かんがい排水事業 富岡地区）

富岡町における農業用水は、ため池や町のほぼ中央を流れる富岡川のほかに2つの小さな河川に依存してきましたが、河川の流路が短く、流況も不安定なことから用水不足は恒常的且つ深刻なものでした。そこで恒久的な水源を確保するとともに、安定的な農業用水を供給し、地域農業の持続的発展を図ることを目的とした、かんがい排水事業を昭和62年度より実施しています。



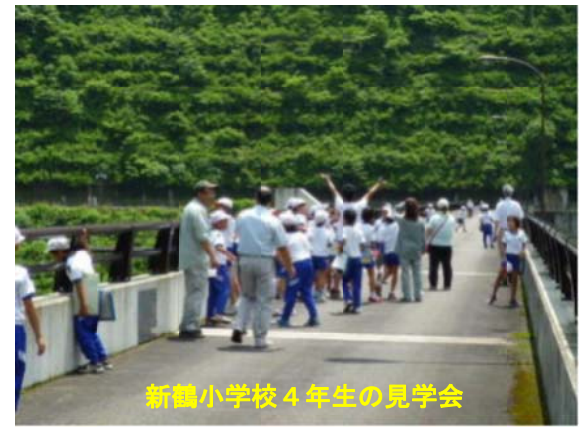
最高水位に到達した滝川ダム

新たな水源となる滝川ダムは、平成19年度にダム堤体のコンクリート打設を完了し、現在試験湛水を実施中。平成22年4月には最高水位に無事到達しました。富岡町のほぼ全域に農業用水を供給するための滝川幹線用水路は、平成21年度に全線布設を完了。水路トンネル、水管橋をはじめ様々な施設を含む全長約6kmのパイプラインであり、その水密性・機能性・安全性を確認する通水試験を現在実施しています。記録的な猛暑・少雨となったこの夏、滝川ダム上流にある2つのため池はほぼ空っぽになりましたが、安定して農業用水を供給することができました。事業最終年度となる本年度は場内整備等の補完工事を実施。滝川ダムは平成23年4月より供用を開始する予定です。（富岡用水改良事務所）

### 会 津

#### ○『新宮川ダムを活用したPR活動の展開』

新宮川ダムは、会津宮川地区（会津美里町、会津坂下町）の会津盆地に広がる約四千五百haの受益地に水を供給するために建設された農業用の利水ダムです。ダムの財産所有は、国（東北農政局）、管理主体は福島県、操作は会津宮川土地改良区が行っています。新宮川ダムの湖名は、公募によって決められ『会津美里湖』と命名されており、新宮川ダムの湖名が『会津美里湖』と呼ばれていることをどの程度の方が知っているのでしょうか？（PR不足？）



新鶴小学校4年生の見学会

本年度、新宮川ダム管理事務所では、組織内部の研修を含め、多くの研修を受け入れ、その役割と必要性などについて、PRを行っているところです。しかし、会津宮川地区管理体整備推進協議会において、委員になったいただいている地域住民の方より、「新宮川ダムはあることは知っているが、PR活動を実施してまいりたい」と考えておられます。（会津農林事務所）

### イベント情報

まいよいよ行楽の季節を迎えました。この秋もたくさんのお出かけが待っています。少し涼しくなってきましたが、運動するのにはとても良い季節です。家族みんなで出かけませんか？新しい『福島の秋』を発見できるかも！『福島の秋』を詳しくは、『農村計画課』までお問い合わせください。

【10月】  
○24日(日) 『第5回水土里ウォークinきたかた2010(喜多方市)』【概要】日中5kmのコース  
○24日(日) 『第7回水土里ウォーク(会津美里町)』【概要】疏水100選に選ばれた会津大川用水をめぐる約6.5kmのコース  
○30日(土) 『あぶくまの水源を歩こう(古殿町)』【概要】要一古殿町鎌倉岳付近の紅葉を楽しみながら歩く約4kmのコース  
【11月】  
○14日(土) 『あぶくまふるさとウォーク(二本松市)』【概要】道の駅ふくしま東和から馬洗川溪流などを歩く6kmと10kmのコース

### ピックアップ

平成22年8月9日に浪江町棚塩排水機場で「排水機場の管理・点検・診断等技術力向上研修会」と銘打って、排水機場の操作、維持管理に携わる市町村、土地改良区、県職員を対象に研修会(第一回)を実施しました。この研修会は、平成22年度からスタートした「いきいきふくしま農林水産振興プラン」に基づき、農業水利施設の適正な管理を行うための技術力向上を支援する目的で実施したものです。当日は、福島県土地改良事業団体連合会の技術者を講師として、排水機場の仕組みや日常管理のポイント等の説明を受けた後、機場において出席者全員が点検機器の点検診断を行うという、実践的な内容となりました。



真剣に説明を受ける受講者達

出席した管理者は講師の話に熱心に聞き、積極的に質問し、技術の向上に努めていました。（農地管理課）

地域に根ざした水と土のネットワーク 二十一世紀土地改良区創造運動の推進

西郷ダムは県南地方の西郷村にあり、阿武隈川最上流部にあり、農業用水利施設です。昭和30年5月に竣工し、東北農政局から阿武隈川上流土地改良区(理事 郷泰隆)が管理を委託されています。



西郷村立川谷小学校による西郷ダム見学

毎年9月中旬頃にダムの水を全て抜き空にします。平成12年に西郷ダムに1番近い西郷村立川谷小学校からダムの水を抜いた時に子供達にダムの底を見せたいという思いが、このように連絡がありました。

その後、ダムの地層の観察を終え、水を抜いた状態のダムを底まで降りて見学しました。貯水池内にはダム建設当時の作業員宿舎跡が残っており、歩いて見て回りました。

それから川谷小学校とはダム見学とダムの中の地層の観察を続けています。平成21年度は川谷小学校の渡辺康一教頭先生、担任の安部大助先生、小学6年生男子1名と女子1名が参加しました。改良区からは、宮田洋事務局長、また、昭和32年から26年間西郷ダムの宿舎で家族で暮らし、管理人を務めた森辰



西郷ダム宿舎で家族で暮らし、管理人を務めた森辰

「学校のプールに比べたらなんて大きいんだろう。」と驚いていました。子供達にとっても貴重な体験だったようです。ダム管理事務所において、森さんが子供のころに西郷ダムから川谷小学校まで約4kmの山道を通学したときの思い出や当時の生活の様子を話していただきました。



かんがい期

生活の様子を話していただきました。子供達は家に帰ったらおじいちゃん、おばあちゃんに今日のことを話してみると言っています。ダムの見学が終わるといつも子供達からお礼の手紙と写真が届きます。うれしい限りです。これからは西郷ダムの歴史と役割を多くの人達に伝えていき、また、受益者の皆様には重要なダムを守り続けて行きたいと思っています。(阿武隈川上流土地改良区)

本庁各課の紹介



農村振興課長 佐藤 弘一

農村振興課は、職員数が14名で、50歳代3名、40歳代6名、30歳代3名、20歳代2名、平均年齢43歳と平均的な年齢構成です。農業農村整備を担当する農村整備総室のなかで、ちよつと毛色が違う仕事を担当しています。主なものを御紹介いたします。

まず、「中山間地域等直接支払事業」ですが、傾斜地が多い地域で生産活動が維持できるような、国が平成12年度からはじめた対策で、国や市町村とともに負担しながら交付金を交付して生産基盤の維持に向けた取り組みを支援しています。

次に、「耕作放棄地対策」ですが、かつて本県の農業・農村を支えてきた養蚕や葉タバコが昭和50年代から60年代にかけて衰退したことや農家の減少などにより、耕作されずに荒廃する農地が増えています。その面積は2万ha以上あり、全国一となっています。県内の生産基盤を維持し、国全体の食料自給率を回復させるため、耕作放棄地の除草や木の根の除去など耕作可能な状態に戻す取り組みを、国の耕作放棄地再生利用緊急対策などを活用して支援しています。

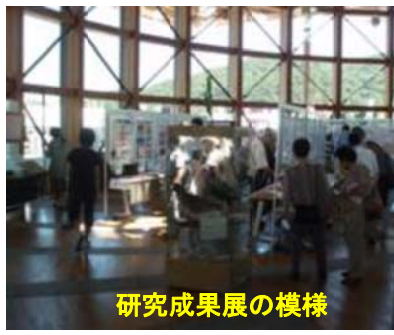
農業農村フォトギャラリー

農業総合センター

県農業総合センターは、作物園芸、生産環境、安全推進、有機農業推進部門に加え、経営部門や、農業土木、農業機械の作業技術など、種々の研究が行われている試験研究機関であり、私の担当する農業土木関係では、生態系配慮施設の管理手法や農村景観に関する研究を進めているところです。

水稲関係では、5月18日には知事を迎えて「大田植え」と称する育種に関する手植えが行われました。最近のニュースとしては、9月4日(土)、5日(日)に「農業総合センターまつり」(第五回)は、二日間でおよそ一万二千人の入場者を迎えて盛大に開催され、各種研究成果展や農業技術相談会、田んぼの生きもの展など、なかでも

県オリジナル水稲品種の「天のつぶ」が展示され、関心を集めました。またグルメの方には、会津産ほか、県内各地産のそば粉による打ち立てのざるそばの提供や、川俣シャモの焼鳥、エゴマ豚の試食会などの出店が並び、大勢の家族連れの方々がおいしそうに食事をされておりました。また果物や野菜類の直売展など、例年どおりの盛況ぶりでした。来年も、いろいろな企画を予定しておりますので、皆さまもぜひ、おいでください。だされば幸いです。農業者戸別所得補償制度の一部開



研究成果展の様

お知らせ

「あいつま・たがや心隊」隊員募集中!! 県内にある耕作されなくなった農地を、農耕地として再生させるボランティアを募集しています。

農村振興課のホームページから、耕作放棄地活用支援隊登録申請書をダウンロードし、ご記入のうえ、農村振興課までご連絡をお願いいたします。また、申請書は市町村役場や最寄りの農林事務所にも準備してあります。(農村振興課)

編集後記

西庁6階のゴーヤが、日々大きくなっていきます。例年より暑い夏から、一気に寒い秋になりました。油断をして風邪をひかないよう御用心ください。



「農空間」とは、農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統文化などが溶けあった空間のことです。

県北地方の風景



ため池:福島市平石地内



頭首工:福島市飯坂町



分水工:伊達市保原町

土地改良施設と子どもたち



頭首工:福島市飯坂町